

# 第 10 期 総会 資料

## 目 次

1	平成 22 年度	事業報告	1
	第 1 部	事業概要	1
	第 2 部	会計報告及び会計監査報告	26
2	平成 23 年度	事業計画(案)	30
3	平成 23 年度	予算(案)	41



特定非営利活動法人  
日本システム監査人協会

# 平成22年度 事業報告

## 第1部 事業概要

### 1. 本 部

#### 1. 全般概要

##### (1) 会員の状況 (平成22年12月末現在)

正会員・個人・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 964名

正会員・団体・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37社

入会申込は個人49名、法人3社と順調であるが、退職などによる退会者が上回り、今年度も個人会員1000名を維持できなかった。

なお、地方会員の組織として北海道・東北・中部・北信越・近畿・中四国・九州の7支部がある。また東京都中央区に本部の事務所を置いてある。

##### (2) 理事会等の本部活動状況

#### 理事会の活動

開催 1/14, 2/4, 3/11, 4/8, 5/13, 6/10, 7/8, 9/9, 10/14, 11/11, 12/9

理事会は、当協会の活動の原点であり、活動の諸案件が毎回活発に議論され審議・決定されてきた。その議事録は会員メーリングリストで報告し、会報に掲載したとおりである。

#### 研究会等の活動 (詳細は別項)

##### 月例研究会

月例研究会(沼野伸生主査)は、システム監査に関係ある時代の動向を先取りした主題で講演会を設営し、今期は9回で965名(前年比86名増:平均参加者数108名)の参加を頂いた。

##### システム監査事例研究会

理論を監査の実践の場に生かすシステム監査事例研究会(畠中道雄主査)のシステム監査実務セミナー2回、及び「事例に学ぶ課題解決セミナー」を2回開催した。内部統制セミナーは開催しなかった。なお、システム監査普及サービスについては3社から打診があったが受注には至らなかった。

##### システム監査基準研究会

システム監査基準研究会(松枝憲司主査)は、「システム管理基準 for オフショア」については、21年度のパブコメを反映させたものを「第1版」として協会HP上で公開した。

#### 会報・広報・事務局活動等

定例の活動については、各研究会、分科会を含めて別に具体的報告がある。ここでは特記事項のみをまとめて報告する。

会員に対するコミュニケーションの最大の手段として「**日本システム監査人協会報**」(竹下和孝主査)を発行している。今年は紙版から電子版に切り替えを行い、紙版を1回(総会特集号)、電子版を6回発行した。

また、**法人部会**(小野修一主査)は、定例部会を月1回実施し、会員企業同士でシステム監査ビジネスおよび関連情報に関する情報交換を行うとともに、地方自治体向けおよび民間企業・団体向け情報セキュリティセミナーの企画・案内を行った。

「**CSA利用推進**」(力利則主査)は、CSA・ASAの交流の場として「CSAフォーラム」を4回開催し、毎回約20名の参加者を得て、講師による報告と意見交換を行い、参加者にとって有意義な場の提供ができた。

事務局(馬場事務局長、金子副事務局長、斎藤理事)は、引き続きホームページの改善に取り組んだ。また会計(仲主査)と協力し、経費削減に取り組んだ。

### (3) 公認システム監査人、システム監査人補の認定

#### ① 認定登録の状況

9年目の公認システム監査人及びシステム監査人補の認定は以下のとおり行うことが出来た。公認システム監査人は春季4名、秋季8名、システム監査人補は春季9名、秋季10名で合計31名の方々の認定が終了した。

その結果、累計では**公認システム監査人が417名、システム監査人補が207名、あわせて総勢624名の資質の継続・維持・向上も担保されたシステム監査人が認定登録**されたことになる。

今回も認定業務では、面接業務(鈴木信夫主査)が審査として重要な役割を担い、東京地区の他に大阪(2回)、名古屋、広島の支部所在都市でも行われた。それぞれ原則として土曜日に実施し面接委員は1組2名であった。

#### ② 認定更新の状況

平成15年度、平成18年度に認定登録された公認システム監査人及びシステム監査人補の方々の認定更新に際し、公認システム監査人27名、システム監査人補40名の方々が失効となった。その結果、前記①に記載のとおり累計624名の陣容となっている。

平成16年度、平成19年度に認定登録された公認システム監査人及びシステム監査人補の方々については、昨年すなわち平成22年の年末に認定期限が到来したが、この認定更新時期を1月末と変更し、現在更新認定作業中である。

#### ③ 特別認定講習実施状況

教育研修委員会(鈴木実主査)は、別項の報告のとおり実施機関2社の合計23回延べ40名の講習が実施された。

## 2. 教育研修委員会

本年度も前年同様、特別講習認定機関に委託により次のコースを実施した。

### (1) 論文・プレゼンテーションコース(1日コース)

実施回数：東京 7回、大阪 1回 計 8回

実施時期：1月1回、2月1回、6月1回、7月1回、8月3回、9月1回、

受講者：14名 (前年度実績 8回 受講者 12名)

### (2) システム監査に関する知識コース(2日コース)

実施回数：東京 12回、大阪1回 計13回

実施時期：1月2回、3月1回、5月1回、6月1回、7月3回、8月1回、9月2回、11月1回、12月1回

受講者：22名 (前年度実績 10回 受講者 17名)

### (3) 情報システムに関する知識コース

実施回数：東京 2回、大阪 0回 計 2回

実施時期：7月1回、8月1回

受講者：4名 (前年度実績 1回 受講者 1名)

### (4) 特別講習実施機関および実施回数

・(有) インターギデオン 1日コース7回、2日コース14回 計21回

・情報システム監査(株) 1日コース0回、2日コース 2回 計 2回

合計 23回、受講者延べ 40名

(前年度実績 1日コース8回、2日コース11回  
合計 19回、受講者延べ 30名)

### (5) コース運営管理について

- ・各コースともに採点結果を、事務局で評価した。特に問題の発生はなく、本年度も再テストも発生しなかった(再テストは委託研修機関で実施されたため)。

## 3. 会報

### (1) 概要

会報部会では、従来、年6回の会報誌の定期発行(冊子)を維持してきましたが、経費削減(印刷費削減、会員への送付先変更に伴う返送対応の削減)および電子書籍の普及に伴う利便性向上を実現するため、電子版発行に切り替えました。協会活動の記録としての冊子は年1回発行とし、会員相互のコミュニケーション向上を図るため、電子的なアンケートも実施して意見の吸い上げを行ってまいります。今回は特に、理事によるシステム監査人のエッセイ「めだか」を掲載し、活発な意見交流を促すきっかけとしております。また、会員以外の方も閲覧できる会報記事の閲覧サイト(<http://skansanin.com/saa/j/>)を開設し、公開を始めました。すこしずつ会員以外への交流に着手しています。

2010年度会報担当委員

竹下和孝(主査)、仲 厚吉、安部晃生、成楽秀、桜井由美子、山田隆、  
片岡学、木村陽一、藤野明夫

今回は、会報の電子化に伴う編集の稚拙さ、利用上の不便さもあつたかと思われませんが、工数、予算の関係もあり、順次対応してまいります。

また、当協会の会報は、電子版になっても国立国会図書館へ納品され、一般の検索、閲覧に供されておりますので、内容の充実を図ってまいります。

### (2) 2010年に発行した会報の内容

システム監査人のエッセイ「めだか」は、会員であればどなたでも投稿できます。

投稿を促すため匿名(めだかネーム)を採用していますので、重複しないよう、これまでの投稿者が使用した名称を確認して投稿ください。

号・月	めだか(めだかネーム)	主な投稿記事(投稿者の敬称略)
112号 2010.5	特集:総会、特別講演、支部活動 近畿 2009 監査サービス報告 ISACA 大阪支部と SAAJ 近畿支部合同講演会実施報告 近畿支部第117回報告 ・北信越 活動報告 ・中部091128-29 合宿報告 (冊子版で送付)	第152回月例研究会「IT分野の会計検査」
113号 2010.7	(113号から電子版を配布) 岡三証券知財判決(真却辺利) ネット選挙活動でのリスク(歓作人)	
114号 2010.8	日本振興銀行メール削除事件(左平次) 15万台Windows2000サーバ(唐辛子)	近畿支部主催 システム監査入門セミナー(1回目)を開催して
115号 2010.9	新たな情報通信技術戦略(太郎冠者) システム監査の勘所(おのおのがた)	第153回月例研究会報告 第157回月例研究会報告 近畿支部主催 システム監査入門セミナー(2回目)
116号 2010.10	日本振興銀行 破たん処理へ(左平次) システムリスクへのアンビバレンス(KP)	第2回 課題解決実践セミナー報告
117号 2010.11	タイムスタンプ(じいじい) システム監査法制化か自己規律(拡張子)	第158回 月例研究会報告 システム監査実践セミナー(近畿支部)

		主催) 開催報告 北信越支部報告
118号 2010.12	システム監査の専門家(GAKU) グーグル秘録 完全なる破壊(真却辺利) システム監査の原点(“こもれび”の監査人)	会報電子化についてのアンケート報告 (集計結果) 電子版会報の利用方法

### (3) 2010年の投稿論文

該当なし。

## 4. 月例研究会

平成22年度は、以下の通り年間9回の研究会(前年比1回増)を実施した。

回目	開催月日/ 場所	テーマ/講師	参加 人数
152	1月22日(金) 総評会館	テーマ:「IT分野の会計検査」 講師:会計検査院 事務総長官房 上席情報処理調査官 土肥 亮一 氏	114
153	4月27日(火) 総評会館	テーマ: 「東証新売買システム (arrowhead)の開発経緯について ～上流工程の取り組みとその効果～」 講師:株式会社東京証券取引所 常務取締役・CIO 鈴木 義伯 氏	151
154	5月11日(火) 総評会館	テーマ: 「ソフトウェア資産管理 (SAM (Software Asset Management)) の概 要と今後の動向、及びSAMにおける監査の実際」 講師:株式会社クロスビート 代表 財団法人日本情報処理開発協会 ソフトウェア資産管理評価検討委員会委員長 篠田 仁太郎 氏	86
155	6月28日(月) 総評会館	テーマ: 「第16回 企業IT動向調査2010(09年度調査) ～ユーザー企業の現状と課題～」 講師:社団法人日本情報システム・ユーザー協会 常務理事 原田 俊彦 氏	101
156	7月30日(金) 総評会館	テーマ: 「IFRS(金融商品会計)によるITの影響とITの内部統制の評価」 講師:あずさ監査法人IT監査部パートナー 遠藤 誠 氏	137
157	8月27日(金) 総評会館	テーマ: 「情報セキュリティ検証業務～「日本公認会計士協会 IT委員会研究 報告第39号」の解説～」 講師:有限責任監査法人トーマツ エンタープライズリスクサービス パートナー 公認会計士 和良享介氏	96
158	9月28日(火) 総評会館	テーマ: 「大規模システム開発におけるプロジェクト・マネジメントの実際」 講師:日本ユニシス株式会社 金融第三事業部副事業部長 葛谷 幸司 氏	125
159	10月29日(金) 総評会館	テーマ:「カブドットコム証券のIT経営」 講師:カブドットコム証券株式会社 システム統括 執行役 阿部吉伸 氏	75
160	11月25日(木) 総評会館	テーマ:「新たな情報通信技術戦略について」 講師:内閣官房情報通信技術(IT)担当室 主査 内田 貴之 氏	80

○年間の開催回数は9回（前年比1回増）、総参加者数は965名（前年比86名増）で、各回の平均参加者数は108名（前年比2名減）であった。

総参加者数は開催回数が1回増えたこともあり、86名増加し、前年に比し多くの方々に参加頂いたと言える。引き続きホットなテーマ、幅広い講師招聘をすすめ、多くの会員等の期待に応えていきたい。

また、参加者の内、当協会の会員以外の方の割合が約35%（前年比増減なし）となった。

当協会の月例研究会が、協会以外の方々からも引き続き注目され、今年も毎回多くの方々にご参加頂いた。

○講師の方の所属は、中央官庁が2名、監査法人（当協会会員）が2名、民間企業が3名、諸団体が2名であった。これはほぼ予定通りのバランスであった。

○各支部へ配付している録画ビデオは、各支部主催の研究会等でこれまで以上に積極的に活用されている。

○引き続き受付に定期的に学生アルバイトを配置し、多くの参加者のスムーズな受付業務を心がけた。

## 5. 法人部会

### (1) 法人正会員 37社（平成22年末現在）

入会 次の3社

- ・株式会社サブスリー
- ・株式会社病院システム
- ・リーバル株式会社

退会 2社

### (2) 活動内容

①定例部会を、原則、月1回開催した。

②法人正会員の増強を図るべく、次のところに入会案内のDMを送付した。

- ・平成22年度システム監査企業台帳登録企業

③「自治体向け情報セキュリティセミナー」の内容を見直し、22年度版として案内した。

- ・セミナー案内のDMを、全国都道府県、関東各都県の市以上、および東京都23特別区の自治体に送付した。

- ・当協会のWebサイトで広報活動を行った。

④新たに「民間企業・団体向け情報セキュリティセミナー」の企画を立て、当協会のWebサイトでの広報、FISA（情報システム・ユーザ会連盟）主催のシステム監査講演会（2010/10開催）での案内チラシの配布を行った。

⑤会員同士のシステム監査の普及・ビジネス化についての情報交換を行った。BCP（事業継続計画）をテーマとして、公式に発表されているガイドライン、報告書などを順次とり上げ、読合せ、情報・意見交換を行った。

⑥会報での法人会員企業紹介を、最近入会された法人会員から行うべく、会報担当と検討を進めている。来期早々からスタートしたい。

## 6. CSA利用推進

### (1) 活動の概要

- ・CSA利用推進の取組みは本年度で5年目となった。本年度は、前年度と同様にCSAのフェイスTOフェイスの相互研鑽、情報共有、議論の場としてCSAフォーラムを年4回開催した。
- ・CSAフォーラムは、CSA（ASA含む）百数十名の事前登録者を対象に、1月、4月、7

月、11月、1月（予定）に開催した。各回20名程度の参加者が集まり、講師による実践的なテーマの報告と時間を掛けた質疑応答による参加者との意見交換により、有益な場の提供とフェイスTOフェイスの交流が進んだ。

- ・CSAフォーラム以外のCSA利用推進Gの会合やCSAパンフレット、CSA認定カード、CSAを入札条件に入れる依頼文の周知、CSA関連サイトの充実等についてあまり活動できなかったことが反省点である。

## (2) 活動の目的

- ・「CSAのプレゼンスを高める。CSAの社会的な評価や価値を高める。CSAの社会的な認知度を上げる。CSAになって良かったと思ってもらえる。CSA認定の付加価値を高める。CSAが社会的に認められ活動がしやすくなる」ということを活動の目的としている。
- ・今年度は前年度同様、CSAフォーラムの開催によりCSA同志の交流と輪を広げ、相互連携等を行うことを活動目標とした。

## (3) CSAフォーラム活動

- ・CSA認定取得者の相互研鑽、情報共有、フェイスTOフェイスの意見交換の場として、“CSAフォーラム”を開催している。当初、CSA（ASA含む）認定取得者全員に募集案内を出し、事前登録者約百数十名の登録があった。事前登録はその後随時受け付けている。事前登録者に対して、“CSAフォーラム”の開催案内を発信して、各回とも20名程度の参加者を得ることができた。今年の開催内容は次の表の通りである。

月日	開催回	テーマ	報告者	概要
1/25	第8回	「地方在住CSAの活動とスキル維持向上策」	福田啓二氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム監査としての活動</li> <li>・支部をはじめとする地域コミュニティへの関与</li> <li>・システム監査人としてのスキル維持・向上策</li> </ul>
4/26	第9回	「目からウロコの情報セキュリティと様々な雑感」	萩原栄幸氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティにおける様々な犯罪事例と知っている便利なこと</li> <li>・今後の世の中の変化と意識変革の必要性</li> </ul>
7/26	第10回	「金融機関のシステムリスク管理—中央銀行の立場から」	大石正人氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融機関における考査とオフサイトモニタリング</li> <li>・決済の安全性や効率性の確保に向けた活動</li> </ul>
11/12	第11回	「システムリスク、その計測・管理・監査で求められているもの」	中山孝明氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報システムのリスクとコントロール、リスクの計測と評価、システム監査</li> <li>・金融機関としてのオペレーショナルリスクの管理</li> </ul>
1/26	第12回（予定）	「今までの振り返りと今後の計画」	CSAフォーラム事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CSAフォーラムの第8～11回の振り返り</li> <li>・CSAの要望と今後の計画</li> </ul>

## 7. システム監査事例研究会

(1) 研究会メンバー : 113名 (2010年12月現在)

### (2) 月例研究会開催

定例会 毎月第一水曜日 18:30～20:30

12回開催 延べ出席者数 113名

内容

- ・事例研メンバー講師による過去の監査サービスの振り返り
- ・システム監査実務・実践セミナーの運営に関する打ち合わせ

1月6日	10名	22年度活動方針案の説明、課題解決セミナー準備状況報告
2月3日	9名	15回実務セミナー報告、例会のテーマ検討
3月3日	8名	課題解決セミナー教材レビュー
4月7日	9名	d社監査サービスの振り返り
5月12日	11名	g社監査サービスの振り返り
6月2日	12名	f社監査サービスの振り返り
7月7日	8名	Z社監査サービスの振り返り
8月4日	10名	Y社監査サービスの振り返り
9月8日	8名	c社監査サービスの振り返り
10月6日	9名	16回実務セミナー報告、k社開発トラブル報告
11月10日	6名	金融機関におけるシステムリスクとその管理・監査
12月1日	13名	年間活動報告

### (3) システム監査サービス

製造業、投資会社、医療コンサルタント会社から監査依頼の打診はあったものの、受託には至らなかった。

### (4) システム監査実務・実践セミナー

- ・本年は4日間コースを2回開催し、1996年から実践・実務セミナーは通算34回の開催実績となった。
- ・実務セミナー4日間コースは、2002年から開始し通算16回目となり、公認システム監査人の教育制度の一環として定着してきている。

#### ①第33回（第15回実務セミナー4日間コース）

日時：1月16日 10:00～ 17日 15:00、

1月30日 10:00～ 31日 15:00

場所：千葉市幕張 海外職業訓練センター（OVTA）

参加者：受講生17名、講師4名

#### ②第34回（第16回実務セミナー4日間コース）

日時：8月28日 10:00～ 29日 15:00、

9月11日 10:00～ 12日 15:00

場所：東京都中央区晴海 晴海グランドホテル

参加者：受講生6名、講師2名

### (5) 内部統制セミナー

今年度は開催されなかった。

### (6) 事例に学ぶ課題解決セミナー

#### ①発足経緯

事例研におけるセミナー運営方法、カリキュラム構成等について再検討し今後の方向性を定めていくため、2009年1月31日（土）～2月1日（日）湯河原の研修センターにおいて合宿による事例研究会集中検討会が開催された。この集中検討会の中で、システム監査入門レベルの位置づけで、新たに新セミナーを開発する提案がなされ、企画検討チームをスタートさせることとなった。

新セミナーは、システム監査技術者（志望者を含む）だけでなく、経営者、IT技術者等、より広範囲の受講者も想定し、システム監査の有効性等を認識していただくことを目標とし、かつ、これまで実施してきた「システム監査実務・実践セミナー」、「内部統制セミナー」への導入ステップとして位置づけることもねらいとした。



下記2項に述べる具体的な検討を経て、2009年8月には、第一回セミナー用教材を完成し、事例研有識者による内部レビューを行い、2009年9月には東北支部において、第一回の実例発表セミナーを開催した。2010年12月末現在、3項に述べるように、計3回の開催実績を重ねることができた。

名称も「事例に学ぶ課題解決セミナー」と改め、単なる「システム監査入門」に止まらず、システム監査の中核であるITリスクとそのコントロールに関する理解を深めるための斬新かつ高度な内容を実現できたと考える。

## ② 新セミナーの検討状況

湯河原集中検討会の結果を受け、中山理事をリーダーとして、企画検討チーム6名のメンバーで2009年2月より早速検討を開始した。メンバーは電子メール等を活用しネット上での相互検討、毎月隔週の集合打合せ等を精力的に行い、セミナー内容の具体化、構成の検討、教材作成作業等に取り組んだ。新セミナーのテーマとして、システム監査の入門者でも理解できるよう実際に起ったIT故障事例を採り上げ、ITのリスクとコントロールについて学ぶ構成をとることとした。

IT故障事例は、日経BP社の「動かないコンピュータ」シリーズや事例研メンバーが自ら体験したシステム開発～運用上までのトラブル事例等を集め、これらの中から、代表事例を抽出、事故の背後に潜むITリスクの分析とその損失リスクを抑制するためのコントロール策の評価法について、システム監査基準を念頭に考察できるようなセミナー教材としてまとめた。

本セミナーの特長は、主に以下のような点にある。

- ・ 故障発生の直接原因や対症療法的な対策ではなく、より根本的な原因の分析とそのコントロールについて理解を深め、システム監査の重要性を認識していただけるよう工夫した。具体的には、「問題事象の把握」からスタートし、「システムリスク（脅威と脆弱性）の考察」、「リスク対策（コントロール）の考察」、「システム監査における評価ポイント」というように段階的なアプローチにより考察を深める。
- ・ 受講者が容易に体験的に習得できるよう講義と演習を併用し進める。「リスク関連表」や「評価ポイント一覧」などの補助教材も開発・配布し、受講者自身による判断を支援する。また、重要なキーワードを「独自のキャッチフレーズ」を用いて分かりやすく解説する等の配慮を行った。

## ③ 新セミナーの開催実績

2009年の第一回事例発表セミナー後、2010年にかけて教材のブラッシュ・アップを行い、2010年度末までには、さらに2回開催、これまで3回の実績を上げた。当初の構想では、1日コースで講義と演習を行うこととしていたが、その後、講義と簡易演習による半日コースも追加した簡易形式も設定した。

### ・ 第2回事例に学ぶ課題解決セミナー（半日コース・簡易演習付）

日時：8月21日 13:00～17:00

場所：大阪市北区梅田

参加者：近畿支部を中心に受講生19名、講師2名

### ・ 第3回事例に学ぶ課題解決セミナー（半日コース・簡易演習付）

日時：11月27日 13:00～17:00

場所：東京都中央区日本橋

参加者：協会の会員7名、講師2名

これまでに、セミナーの課題として実施した事例テーマは、

- ・ 大手電機メーカーの受発注。物流システムの障害、
- ・ 医療機器メーカーの統合システム構築工程の障害
- ・ 大手証券会社の大量誤発注

反響：いずれのセミナーも受講者の理解度はたいへん良好で、進め方などに対しても好意的な反

応が多かった、今後にもむけて、未実施の他支部などでの追加開催や企業や一般の研修会等への参入なども期待される。

## 8. 情報セキュリティ監査研究会

### (1) 平成22年研究会研究項目

- ①情報セキュリティ監査基準の監査に関する情報・ノウハウの共有
- ②情報セキュリティ監査基準を利用する「基準ツール」の充実を図る  
『情報セキュリティ監査のためのリスクの洗い出し  
監査ツールの利用』の一般化、普及

### (2) 活動結果

22年には主査の事情で十分な活動が出来なかった。その為、ツールの作成までの成果にいたらなかった。「リスクの洗い出し」に関しては、クラウドコンピューティングの利活用についてのリスクについても検討が必要であり、その資料を読み始めている。

### (3) 検討の経過

“情報セキュリティ監査を効果的にはどうやるか”の基本となる“リスクを洗い出す方法”を中心に考えている。これには、情報取扱いのフロー（\*）に基づくリスクアセスメントの手法により検討し、情報資産項目をキーにリスク要因を洗い出し、その対応方法を検討し、ツールの材料とする検討を進めている。

(\*）業務フローとは、オペレーションフロー、システムフロー、ワークフローなどをいう。

ノウハウの共有として、赤本に掲載した「基準ツール」の充実を図ることと、当研究会以外で試行してもらうことも意識したものである。

## 9. システム監査基準研究会

### (1) 研究項目

- ① SAAJ システム管理基準体系

### (2) 研究会項目

1) 各種開発環境・手法における監査のポイント

- ①「システム管理基準 for オフショア第1版」  
パブコメを反映させたものを「第1版」として協会HP上で公開した。  
公開後 EXCEL 版チェックリストの提供依頼が3件あった。

- ②「Web システムにおける監査のポイント」（開発・利用）  
研究会内のレビューを行い、原案修正中

- ③「BCM における監査のポイント」  
研究会内のレビューを行い、原案修正中

- ④「プロジェクトマネジメント監査のポイント」  
システム管理基準と PMBOK のマッピングを終了した。

2) IT Audit の ISO 化の動きに対応して、システム監査基準等関連資料についてコメントした。

3) 「情報システム監査実践マニュアル」と「IT 統制監査実践マニュアル」について、出版社の変更に伴う編集作業を実施した。

### (3) 定例研究会

- ・定例研究会は、原則月1回開催した。

## 10. 個人情報保護監査研究会

2010年の当研究会の取り組みは、メンバーを一新し、斎藤(主査)、柴田、仲、馬場、藤澤、吉

谷の6名により研究会を継続していくこととなった。

### (1) 活動方針

今後予定される JIS 改版を視野に入れ、事業者にとって解りやすい個人情報保護監査の手順を整備し、成果物として中小規模の事業者のための「個人情報保護マネジメントシステム実践マニュアル」簡易版の発行をめざす。

### (2) 活動状況

月日	開催回	テーマ
4/14	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の活動方針の確認</li> <li>「個人情報保護マネジメントシステム（PMS）実践マニュアル」簡易版策定スケジュールの確認</li> <li>SAAJホームページ「個人情報保護監査研究会」の見直し案検討。</li> </ul>
5/21	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>SAAJホームページ「個人情報保護監査研究会」改定報告</li> <li>「PMS実践マニュアル」第11章 2.1 監査責任者の役割と監査体制作り</li> </ul>
6/25	第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>SAAJホームページ「個人情報保護監査研究会」改定報告</li> <li>「PMS実践マニュアル」文書レイアウト、用語の統一</li> <li>「PMS実践マニュアル」第11章 2.1 監査責任者の役割と監査体制作り</li> </ul>
7/21	第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>「PMS実践マニュアル」第11章 2.2 監査計画</li> </ul> 様式：年間監査計画書兼報告書 様式：監査 JIS 適合性監査チェックリスト
8/21	第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>「PMS実践マニュアル」第11章 2.2 監査計画</li> </ul> 様式：a 運用監査（体制）チェックリスト 様式：b 運用監査（施設設備）チェックリスト 様式：c 運用監査（システム）チェックリスト 様式：d 運用監査（部門）チェックリスト
9/18	第6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>「PMS実践マニュアル」第11章 2.3 監査を実施する。</li> </ul> 様式：監査実施通知.msg 様式：e 予備調査チェックリスト
10/23	第7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>「PMS実践マニュアル」第11章 2.1～2.3 全体の見直し</li> </ul>
11/29	第8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>「PMS実践マニュアル」第11章 2.4 監査報告書、社長への報告</li> </ul> 様式：年間監査計画書・兼報告書の見直し ・今後の「PMS実践マニュアル」執筆割当 仲：第2章 JIS Q 15001：2006 要求事項の理解： 斎藤：第7章 PMS文書化： 柴田：第8章 運用体制 藤澤：第12章 是正処置及び予防処置：
12/22	第9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>「PMS実践マニュアル」第11章 2.1 運用を確認する。</li> </ul> 様式：運用確認報告書
1/26	第10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>「PMS実践マニュアル」第2, 7, 8, 12章の改訂案検討</li> <li>ホームページに、個人情報保護外部監査サービスの案内を掲載予定</li> <li>25日：森北出版より「PMS実践マニュアル」（従来版）発行</li> <li>ホームページに、会員向け割引販売用し掲載</li> </ul>

## II. 北海道支部

### 1. 第9回支部総会実施

日時：12月10日(水) 18:30～19:30

内容：2010年活動報告, 2011年活動計画,  
 2011年役員選出, 2011年研究会・勉強会計画,  
 2010年会計報告および2011年会計予算について

参加者：参加8名、委任7名

### 2. 定例研究会・勉強会実施

(1) 第1回VTR研究会：1月18日(金) 18:30～20:30

テーマ：「高度情報化社会を見据えた情報システム・ソフトウェアの信頼性向上に向けた取り組み」－第146回研究会のビデオ上映とディスカッション－

参加者：9名、うち JISTA 会員1名

(2) 第1回研究会：2月16日(月) 18:30～20:30 参加者：11名

テーマ：「情報処理技術者試験の変更点」 発表者：福西 信康 氏

(3) 第2回VTR研究会：3月17日(水) 18:30～20:30

テーマ：「IFRSの概要と情報システムに対する影響」

－第151回研究会のビデオ上映とディスカッション－

参加者：12名、うち JISTA 会員1名

(4) 第2回研究会：4月26日(月) 18:30～20:30 参加者：7名

テーマ：「CSRとシステム監査」－研究発表とディスカッション－

発表者：谷口 泰正 氏

(5) 第3回VTR研究会：5月14日(金) 18:30～20:30 参加者：6名

テーマ：「内部統制報告制度におけるIT統制の評価・監査を終えて

～IT統制の1年目の総括と、2年目に向けた経営者、

そして外部監査人に向けての提言～」

－第149回研究会のビデオ上映とディスカッション－

(6) 第4回VTR研究会：6月28日(月) 18:30～20:30 参加者：9名

テーマ：「情報サービス産業の現状と課題」

－第150回研究会のビデオ上映とディスカッション－

(7) 第5回VTR研究会：7月26日(月) 18:30～20:30 参加者：6名

テーマ：「IT分野の会計検査」－第152回研究会のビデオ上映とディスカッション－

(8) 第3回研究会：8月30日(月) 18:30～20:30 参加者：13名

テーマ：記念講演「テストから始めるプロセス改善」－研究発表とディスカッション－

発表者：安達 賢二 氏

(9) 第6回VTR研究会：9月29日(水) 18:30～20:30 参加者：10名

テーマ：「東証新売買システム (arrowhead)の開発経緯について

～上流工程の取り組みとその効果～」

－第153回研究会のビデオ上映とディスカッション－

(10) 第4回研究会：10月25日(月) 18:30～20:30 参加者：11名、うち JISTA 会員1名

テーマ：「PMBOK再発見」

－研究発表とディスカッション－ 発表者：渡部 洋子 氏

(11) 第7回VTR研究会：11月29日(月) 18:30～20:30 参加者：10名

テーマ：「ソフトウェア資産管理 (SAM (Software Asset Management))

の概要と今後の動向、及びSAMにおける監査の実際」のご案内

－第154回研究会のビデオ上映とディスカッション－

### 3. 広報活動

支部活動について対外的に広報、および支部員勧誘を行った。

- ・他団体との交流：北海道ITコーディネータ協議会、日本ITストラテジスト協会北海道支部、および社団法人 中小企業診断協会北海道支部との講演会共催、勉強会の相互開放

- ・支部員の変動：2009年度 個人会員25名、法人会員4名

2010年度 個人会員24名、法人会員4名

支部活動への参加：上記以外に非会員7名、他支部3名および本部1名参加

公認システム監査人3名、システム監査人補4名（計7名中支部員5名）

### 4. メーリング・リストによる連絡

- ・支部メーリング・リストにより、支部員間の連絡および情報交換を実施している。

## 5. ホームページによる情報発信

- ・協会のホームページの支部のコーナーに、北海道支部の情報を記載している。

## Ⅲ. 東北支部

平成15年6月28日に設立した東北支部は、第8期の活動として、会員の増加、システム監査の普及、支部のPRなど、計画に基づいて以下のとおり活動した。

### 1. 平成22年度東北支部総会

- ・平成22年1月16日(土) 14:00~15:00 エル・ソーラ仙台「研修室1」

出席者：会員数38名 出席者26名(内委任状13名)

- ・議題：報告事項1 平成21年度事業活動

報告事項2 平成21年度収支報告

第1号議案 平成22年度活動計画

第2号議案 平成22年度予算計画

第3号議案 平成22年度役員選任

支部長：高橋 典子

副支部長：佐藤賢一、田口三郎

研究会：高橋壮太、小野寺司、館田あゆみ

広報：櫻谷昭慶、横倉正教

会計：佐藤雅英

監事：成田由加里

顧問：鈴木 実

- ・勉強会(総会終了後 15:00~17:00)

IIBA日本支部 理事 安藤秀樹氏をお招きして、「BABOK」についての講演および意見交換会を実施した。

### 2. セミナー・ワークショップ

- ・ITCみやぎ・SAAJ東北、JISTA東北ワークショップ2010 参加者：44名

日程：平成22年10月8日(金)・9日(土)

※当支部が主催担当は、9日を担当

場所：株式会社日立東日本ソリューションズ 6階会議室

主催：日本システム監査人協会東北支部

ITコーディネータ宮城会(ITCみやぎ)

日本ITストラテジスト協会東北支部(JISTA東北)

後援：経済産業省推進プロジェクト「東北IT経営応援隊」

東北経済産業局、宮城県、NPO法人ITコーディネータ協会

NPO法人日本プロジェクトマネジメント協会

内容：

- ①講演「組織人を幸せにするマネジメントシステムと監査人の役割」

EyeBeyond代表 桜井 由美子氏

- ②特別講演「ITC中部様による特別セッション」

1.「明治政府の戦略マップ」 ITC中部 池山 昭夫氏

2.「iPhoneとAR(拡張現実)」ITC中部 小笠原 直樹氏

- ③講演「クラウドサービスと情報システム監査」

NPO法人日本セキュリティ監査協会事務局長 永宮 直史氏

- ④講演「秋田県の事例にみるIT改革と今後の方向性」

秋田県企画振興部情報企画課 IT改革推進監 伊藤良輝氏

### 3. 定例研究会及び役員会

- (1) 3月例会

- ・平成22年3月6日(土) 14:00～17:00 福島市 コラッセ福島 5F研修室A
- ・報告、連絡事項
  - 本部定時総会の報告
- ・勉強会「今年度の実施方針について」
- (2) 4月例会
  - ・平成22年 4月17日(土) 13:00～17:00
    - 仙台市AER28階 エル・ソーラ仙台「研修室2」
  - ・報告、連絡事項
    - 連絡事項
    - 山形合宿について
  - ・勉強会「システム監査勉強会」第1回
- (3) 6月 山形合宿
  - ・平成21年 平成22年 6月26日(土) 13:00～17:00
    - ※18時～懇親会、27日(日) さくらんぼ狩り
  - ・山形県寒河江市 ホテルサンチェリー
  - ・連絡・報告事項
  - ・勉強会「組織のためになるマネジメントシステムはどうあるべきか」
    - 講師：日本システム監査人協会 桜井由美子
- (4) 8月例会
  - ・平成22年 8月21日(土) 13:00～17:00 カメイ仙台中央ビル 会議室
  - ・報告、連絡事項
    - ワークショップについて
  - ・勉強会「システム監査勉強会」第2回
- (5) 11月役員会
  - ・平成22年11月 2日(火) 19:00～21:30 場所 ホテルJALシティ
  - ・議題
    - ・支部総会議事について
    - ・支部総会時の講演について

#### 4. 情報交換

隔月毎に開催している月例会(東北南部三県幹事持ち回り)後には、懇親会を実施して、各県の状況および会員間での情報交換を行った。6月の月例会は合宿での勉強会とし、翌日さくらんぼ狩りを実施し、親睦を深めた。

また、メーリングリストによる本部情報、支部会員間の連絡および情報交換を実施した。

#### 5. 広報宣伝活動

- ・ITCみやぎ・SAAJ東北・JSAG東北ワークショップ(10月8日・9日)の案内を協会ホームページに掲載し、一連の取り組みを通して、一般の参加者、東北各県のITC組織、日本ITストラテジスト協会東北支部などに対して、システム監査の普及および支部活動の宣伝を行った。
- ・4月18日(日)の情報処理技術者試験の会場である日大工学部(郡山)と東北文化学園大学(仙台)において、受験者に対し入会勧誘用の「合格祈願」チラシを合計300枚配布した。会場配布の効果があつたのかは不明だが、仙台での合格率が例年と比べ、飛躍的に伸びていた。

## IV. 北信越支部

### 1. 本年度の目標

- ・ 研究チーム継続によるシステム監査の技術基盤の向上。
  - － システム監査研究会
  - － 情報セキュリティ監査研究会
- ・ 本部、他支部との交流による知識、技術力の向上。
- ・ プレゼンテーション能力の向上。
- ・ インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上。

## 2. 活動報告

(1) 北信越支部年度総会 2010年3月13日(土) アーバンプレイス富山

1. 参加：森様、白井様、栃川様、長谷部様、國谷様、角屋様、坂井様、  
小嶋様、藤原様、清水様、神田様、九州支部) 福田様、宮本

2. 内容；

①年度総会

- ・ 昨年度行事報告と今年度行事計画について
- ・ 昨年度会計報告と今年度予算について

②報告

「IFRSの概要と情報システムに対する影響(その2)」 白井 正 氏

③システム監査研究会経過報告

「IT経営ロードマップ」事例研究：カブドットコム証券株式会社  
戦略的・プログラム・マネジメント・オフィス SPMOについて 森 広志 氏

④情報セキュリティ監査研究会経過報告

「クラウドコンピューティングとは何か」 宮本 茂明

⑤研究会ビデオの貸出し

(2) 福井県例会 2010年6月12日(土) アオッサ(AOSSA)

1. 参加：森様、角屋様、小嶋様、國谷様、栃川様、長谷部様、福田様、  
藤原様、清水様、梶川様、九州支部) 福田様、宮本

2. 内容；

①報告

「監査(内部統制監査)のためのサンプリング」 角屋 典一 氏

②報告

「IT統制評価とシステム監査の合理化について」 小嶋 潔 氏

③システム監査研究会経過報告

「IT経営ロードマップ」事例研究：大成建設 森 広志 氏

④情報セキュリティ監査研究会経過報告

「ASP・SaaSにおける情報セキュリティ対策ガイドライン」  
「アウトソーシングに関する情報セキュリティ対策ガイダンス」  
の概要について 宮本 茂明

⑤西日本支部合同研究会での北信越支部報告検討：スマートグリッド

森 広志 氏

⑥研究会ビデオの貸出し

(3) 長野県例会 2010年9月11日(土) 長野市生涯学習センター (TOiGO)

1. 参加：藤原様、長谷部様、森様、麻生様、小嶋様、堀様、清水様、  
福田様(九州支部)、白井様、梶川様、宮本

2. 内容；

①報告

「経営に役立つIT内部統制評価について」 藤原 康弘 氏

②報告

「開発プロジェクト監査について」 長谷部 久夫 氏

③報告

「災害対策センターの構築（BCP）について」 清水 尚志 氏

④情報セキュリティ監査研究会経過報告

「日本クラウドセキュリティアライアンス」の  
キックオフ・シンポジウム関連情報について 宮本 茂明

⑤研究会ビデオの貸出し

(4) 西日本支部合同研究会 2010年11月6日（土） ウィンクあいち

詳細は中部支部を参照

(5) 石川県例会 2010年12月11日（土） IT ビジネスプラザ武蔵

1. 参加：國谷様、長谷部様、木村様、角屋様、小嶋様、森様、清水様、  
白井様、森田様、藤原様、宮本

2. 内容；

①2010年を振り返って・2011年の予定について 宮本 茂明

②「西日本支部合同研究会-社会システムとシステム監査」参加報告  
森 広志 氏

③報告

「アウトソーシング契約と監査の視点」 清水 尚志 氏

④報告

「ソフトウェア・テスト技法—ソフトウェア品質確保に向けて」 宮本 茂明

⑤研究会ビデオの貸出し

### 3. 支部役員

支部長：宮本茂明（石川）、副支部長：白井正（新潟）、梶川明美（富山）

会計：坂井敏之（富山）、情報統括：清水尚志（石川）

顧問：伊藤祐太郎（富山）、森広志（富山）

県部会長：角屋典一（福井）、木村武志（石川）、國谷吉英（富山）、

風間一人（新潟）、藤原康弘（長野）

書記：尾島純子（富山）、監事：高瀬清春（富山）

## V. 中部支部

### 1. 活動方針

- ・中部支部内会員、およびの継続的な相互研鑽・交流を図る。
- ・中部支部以外の地域や団体との人材交流を積極的に展開していく。

### 2. 活動体制（敬称略）

支部長	： 田中 勝弘	副支部長	： 栗山 孝祐(新任)
		副支部長	： 杉山 浩一(月例担当)
会計担当	： 早川 晃由	会計監査	： 山田 和夫
顧問・監事	： 若原 達朗		
支部担当役員	： 山崎(敏)(広報担当)、石井(研究開発担当)、 原(国際取引研究・国際交流)、 萬代(システム取引法務研究)、高間(渉外担当)、関口(渉外担当)		

### 3. 活動内容

(1) 例会

①SAAJ中部支部総会/第1回例会 (1/16 14:00-17:00 名古屋市(東桜) 参加14名)



## 2009年支部活動計画

- ・例会開催の日程及び担当者の決定

3月13日、5月15日、7月10日、9月又は11月に合同研究会開催

開催場所は5月大垣市、7月浜松市

それ以外は名古屋市内を予定

## 2009年度西日本合同研究会(近畿支部主催)の参加報告

WTCビル見学、研究会について出席者から内容などの報告があった。

講演「失敗学入門」(株)CTI 磯部秀敏 様

NPO失敗学会の紹介及び活動について研究事例を含めて講演があった。

## ②第2回例会(3/13 14:00-17:00 名古屋市(東桜) 参加12名)

SAAJ西日本合同研究会について、次の概要で計画中

テーマ;「社会システムの品質確保に向けて」(仮)

日程;平成22年11月6日(土曜)研究会

平成22年11月7日(日曜)施設見学

研究会開催場所;名古屋駅周辺

SAAJ総会参加報告

2月19日開催の「第9期総会」について総会出席者から

報告があった。

講演「地図情報システムとセキュリティの実践」

株式会社CHAPTER 1 1 企画部 和田 靖様

地図情報(住宅地図)を利用した営業支援システム運用と内部統制、

個人情報保護の実践と地図情報システムへの期待、新しい地理空間

ビジネスの可能性について講演後、意見交換を行った。

## ③第3回例会(5/15 14:00-17:00 大垣市(ソフトピアジャパンセンタービル10階 会議室1 参加16名)

事務連絡 「西日本支部合同研究会について」

11月6日(土)-7日(日)開催予定の西日本合同研究会について

講演内容その他について提案及び意見交換を行った。

講演I「監査でよくありがち(?)な光景」澤田裕也 様

内部監査実施について事例を含めて講演及び意見交換を

行った。

講演II「PFIの紹介と私の研究報告」加藤篤 様

PFI (Private Finance Initiative) について事例を含めた

研究の概要及び今後の課題について講演があった。

## ④第4回例会(7/10 14:00-17:00 浜松市(研修交流センター405会議室) 参加15名)

事務連絡 西日本支部合同研究会について 他

講演I「超上流アプローチBABOK(ビーエーボック)の紹介」

Business Analysis Body Of Knowledge (BABOK) 山崎 敏夫 様

講演II「外からみた自治体」 木下 一朗 様

## ⑤第5回例会(9/11 名古屋市(東桜) 参加20名)

事務連絡 西日本支部研究会について

講演I「nebulaシステムへようこそ ～情報防衛とノンプログラミング構築～」

情報制御株式会社 代表取締役 川島浩嗣 様

講演II「ITエンジニアのモデルキャリアについて」

(独)情報処理推進機構(IPA) 原田奈美 様

## (2) イベント

- ・日本システム監査人協会 西日本支部合同研究会in NAGOYA

(近畿支部/中国支部/九州支部/北信越支部と共催)

後援団体 NPO ITコーディネータ協会、NPO ITC中部

ISACA名古屋支部、日本ITストラテジスト協会

日時および場所

11月6日(土) 11:00~18:00(研究会) 参加64名

ウインクあいち1104会議室(愛知県産業労働センター)

11月7日(日)9:30~(見学会)

産業記念技術会館(トヨタテクノミュージアム)

「繊維機械館」、「自動車館」

研究会; テーマ 「社会システムとシステム監査」

ここ数年、社会システムが停止する事故が発生しており、その品質確保が必要です。システム監査の立場から検討します。

プログラム

挨拶 会長、各支部長、ISACA名古屋支部

基調講演「富士通の社会システム安定稼働への取り組み」

大高 敏孝様(富士通株式会社)

品質保証本部SBG品質マネジメント推進総括部長)

講演1 「社会システムの品質確保のための『システム監査の法制化』の展望

田淵 隆明様(近畿支部会員)

講演2 「スマート・グリッド(社会システムの品質確保に向けて)」

森 広志様(北信越支部会員)

パネルディスカッション「社会システムの品質確保に向けて」

—システム監査人の立場から—

パネラー; 基調講演、講演1, 講演2の各スピーカー

コーディネータ; 石井 成美様(中部支部会員)

特別講演; 「ジョン万次郎」

中濱 京様(株式会社富士通中部システムズ勤務)

中濱万次郎(ジョン万次郎)直系5代目)

## VI. 近畿支部

### 1. 支部体制 (敬称略)

#### (1) 支部役員

支部長 吉田 博一 副支部長 藤野 正純 (9月まで) 関西 康一郎

会計担当 片岡 学

入門セミナー担当 三橋 潤

コンプライアンスのシステム監査研究会担当 雑賀 努

システム監査法制化研究会担当 田淵 隆明

支部サイトWG担当 金子 力造

監事 福徳 泰司

#### (2) 参与

木村 安寿、中谷 正明、安本 哲之助

#### (3) サポーター

林 裕正、是松 徹、小宮 弘信、寺下 厚二、岡谷 亨、鈴木 章彦、松井 秀雄、神尾 博、広

瀬 克之、伊藤 一彦、深田 哲信、後藤 知久(順不同)のサポーター各位の協力を得て、支部活動を行いました。

## 2. 近畿支部総会 1月15日(金) 大阪大学中之島センター

出席者：28名、委任状50名 会員総数177名

- 議 題： 1) 平成21年度の活動報告と平成22年度の活動計画について  
2) 平成22年度の支部役員体制について  
3) 支部規約改正について

※全て異議なく承認された

## 3. 支部役員会・サポーター会議

- (1) 第1回支部役員会 4月28日(水) 常翔学園 大阪センター

定例研究会の有料化、定例研究会サポートの募集等について、検討した。

- (2) 第2回支部役員会 7月28日(水) 常翔学園 大阪センター

定例研究会の有料化、Web掲示板の利用について、決定した。

- (3) 第3回支部役員会 12月27日(月) 弁天町市民学習センター

平成22年度の事業報告、平成23年度の事業計画、支部規約改正について、検討した。

- (4) サポーター会議 平成23年1月13日(木) 弁天町市民学習センター

支部役員選出、平成22年度の事業報告、平成23年度の事業計画、支部規約改正について、検討した。

## 4. 定例研究会活動(原則、奇数月 第3金曜日 講師による発表形式)

- (1) 第117回定例研究会 1月15日(金) 出席者：50名

テーマ：「コンプライアンスのシステム監査」 講 師：松田 貴典氏

- (2) 第118回定例研究会 3月19日(金) 出席者：48名

テーマ：「i社システム監査サービスの実施報告」

講 師：小宮 弘信 氏、i社監査室の方(被監査人側)

- (3) 第119回定例研究会 5月21日(金) 出席者：53名

テーマ：「ソフトウェア資産管理の要点と遵守状況の検証について」

講 師：松井 秀雄氏

- (4) 第120回定例研究会 7月16日(金) 出席者：39名

テーマ：「保証型システム監査の理論と実践」 講 師：藤野 正純氏

- (5) 第121回定例研究会 9月17日(金) 出席者：28名

テーマ：「中小企業へのバランス・スコアカードの導入・実践と

システム監査への応用を考える」 講 師：伊藤 一彦 氏

- (6) 第122回定例研究会 11月19日(金) 出席者：40名

テーマ：「経営労務監査におけるシステム監査の役割」 講 師：島崎 智久 氏

- (7) 第123回定例研究会(ISACA大阪支部との合同講演会) 12月11日(土) 出席者：67名

テーマ：「IT化の原理原則17ヶ条とシステム監査」

～IT紛争防止に役立てる原理原則17ヶ条!～ 講 師：芳仲 宏 氏

- (8) 西日本支部合同研究会

近畿支部出席者：4名、詳細は中部支部を参照

## 5. システム監査勉強会(原則偶数月 第3土曜日 本部月例研究会ビデオ視聴・討議)

- (1) 第23回 2月20日(土) 出席者：46名

①第150回「情報サービス産業の現状と課題」

②第151回「IFRSの概要と情報システムに対する影響」

- (2) 第24回 4月17日(土) 出席数：39名

①第9期通常総会記念講演「クラウドコンピューティングのセキュリティ」

- ②第144回「ビジネス・プロセス・マネジメント（BPM）入門」
- (3) 第25回 6月19日（土）出席数：20名
- ①第154回「ソフトウェア資産管理（SAM（Software Asset Management））の概要と今後の動向、およびSAMにおける監査の実際」
- ②第147回「IT-ADRセンターの取組みと今後の課題 ～LT式システム紛争解決サービスとIT-ADRセンターの意義～」
- (4) 第26回 10月16日（土）出席数：23名
- 第156回「IFRS（金融商品会計）によるITの影響とITの内部統制の評価」

## 6. セミナー活動

「システム監査を学ぶ3つのコース」として、以下4回のセミナーを開催した。

### (1) システム監査実践セミナー

システム監査実践セミナー2日間コース(近畿支部主催)は、昨年の反省点を活かして、より内容を充実させて開催した。

日時： 9月25日（土）～9月26日（日） 受講者数：9名

1日目 13:00～21:00 2日目 9:00～16:00

場所：三洋電機研修センター

### (2) システム監査入門セミナー

昨年度は、午後半日であったが、一日コースとして、2回開催した。

第1回 日時： 6月12日（土）10:00～17:00 受講者数：7名

場所：常翔学園大阪センター

第2回 日時： 7月10日（土）10:00～17:00 参加者：11名

場所：常翔学園大阪センター

### (3) システム監査課題解決セミナー

本部事例研の協力のもと、近畿支部で初めてのセミナーを行った。

日時： 8月21日（土）13:00～17:00 参加者：22名

場所：常翔学園大阪センター

## 7. 研究会・WG活動

次の3研究会、2WGを設置し、支部会員により活発な研究会活動やセミナー等の準備作業を行った。

### (1) コンプライアンスのシステム監査研究会

システム監査学会と共同プロジェクトとして、実施した。

主査：雑賀 努 副主査：吉田 博一 研究会参加者：16名

第1回 1月27日（水）

第2回 2月15日（月）

第3回 3月16日（火）

第4回 4月8日（木）

第5回 5月18日（火）

第6回 7月1日（木）

第7回 7月27日（火）

第8回 8月30日（月）

第9回 9月24日（金）

第10回 10月29日（金）

### (2) システム監査法制化研究会

諸外国でのシステム監査の法制化の実情、及び、パッケージ・ソフトウェアへの製造物責任法の適用の有無等の調査を行った。成果を西日本合同研究会で発表した。

主査：田淵 隆明 研究会参加者：6名

- 第1回 2月5日(金)
- 第2回 3月12日(金)
- 第3回 5月14日(金)
- 第4回 6月11日(金)
- 第5回 7月9日(金)
- 第6回 9月3日(金)

### (3) BCP研究会

会員相互のBCPに関する知識を増やし理解を深めることや、ITのビジネスリスクやリスク分析についての意見交換等を行い、中小企業にフォーカスしたリスク対応ケースを作ることを目的として活動を行う。

主査：荒町 弘 副主査：川端 純一 研究会参加者：8名

- 第1回 2月17日(水)
- 第2回 4月9日(金)
- 第3回 6月4日(金)
- 第4回 8月6日(金)
- <T社と打ち合わせ 8月20日(金)>
- 第5回 8月20日(金)
- 第6回 9月3日(金)
- <T社と打ち合わせ 10月1日(金)>
- 第7回 10月1日(金)
- 第8回 10月29日(金) T社様も初めて参加して行いました
- 第9回 12月3日(金)

### (4) クラウド研究会

7月の支部役員会において、8月の第2回研究会よりシステム監査学会との合同プロジェクトにすることが決まった。

まずは、クラウドサービスを提供している会社より、クラウドとは何かを学ぶところからスタートした。(第1回～第3回 会合まで)

第4回の会合では、クラウドに関する法的規制について、弁護士の視点で研究会メンバーの福本氏より説明いただいた。

今年2月に予定している研究会にて、いったん中間報告をまとめ、研究会として今後の成果の方向性を定めていく。

主査：松田 貴典 副主査：雑賀 努 深瀬 仁(システム監査学会)

研究会参加者：24名

- 第1回 7月16日(金) 新日鉄ソリューションズ(株)：森久 博氏  
題目：クラウドコンピューティングの概観とシステム監査面からみた課題
- 第2回 8月27日(金) 富士通株式会社：若林 毅氏  
題目：クラウドコンピューティングへの取組み ～事例を中心に～
- 第3回 10月14日(木) (株)セールスフォース・ドットコム：  
光田 省三氏 内田 仁史氏  
題目：セールスフォース・ドットコムの情報セキュリティ対策の取組み
- 第4回 12月10日(金) 弁護士法人第一法律事務所 福本 洋一氏

### (5) システム監査セミナーWG

主査：三橋 潤 WG参加者：9名

- 第1回 1月30日(土)

- 入門セミナー(1日コース)6月12日(土)、7月10日(土)の2回  
 実践セミナー(2日コース)9月25日(土)、26日(日)を仮決め
- 第2回 2月26日(金)  
 課題解決セミナー(半日コース)8月21日(土)を仮決め  
 情報処理試験会場でチラシ配布予定
- 第3回 3月23日(火)  
 セミナー開催案内の広報活動について討議
- 第4回 4月14日(水)  
 3コース(4回)のセミナー開催案内兼募集用チラシの決定、配布場所・方法等について討議
- 第5回 5月19日(水)  
 第1回入門セミナーの教材およびロールプレイ配役について確認
- 第6回 6月3日(水)  
 第1回入門セミナーの最終打合せと、事前配布資料の発送作業を実施
- 第7回 6月22日(火)  
 第1回入門セミナーの反省と、第2回開催に向けての確認
- 第8回 7月6日(火)  
 第2回入門セミナーの反省と、課題解決セミナー開催に向けての確認
- 第9回 8月12日(木)  
 課題解決セミナー開催準備と実践セミナーの教材・配役について討議
- 第10回 9月1日(水)  
 実践セミナーの教材やロールプレイの配役等について討議
- 第11回 9月16日(木)  
 実践セミナー開催準備の最終確認と事前配布資料の発送作業を実施
- 第12回 10月19日(火)  
 セミナーWGとして実践セミナー受講者の評価および合否判定を実施
- 第13回 反省会 11月26日(金)  
 反省会の実施

#### (6) 近畿支部サイトWG

主査：金子 力造 副主査：神尾 博 WG参加者：4名

##### 1. 支部サイト関連の契約更新及び経費

ドメイン (saajk.org)、レンタルサーバ (さくらインターネット)

##### 2. メール及びメーリングリストの運用

新規メールアドレス発行、新規メーリングリスト発行(支部役員、コンプライアンス研究会、BCP研究会、システム監査セミナーWG、法制化研究会) ※その他配信メンバーの登録、修正、削除など保守管理を行いました。

##### 3. サイトの運用

ホームページによる情報発信、WG活動支援(コンプライアンス研究会の掲示板運用、BCP研究会のストレージサービス申込設定)

## Ⅶ. 中四国支部

### 1. 活動概要

- ・月例会の実施。(計10回実施)
- ・支部メーリングリストによる連絡、情報交換等。

### 2. 活動実績

月例研究会（東京）のビデオの視聴及び情報交換を中心に月例会を実施した。

- (1) 2月度月例会 2月17日（水）18:30-20:30 出席10名  
「金融機関におけるプロジェクト監査への取り組み事例」（ビデオ視聴及び情報交換）
- (2) 3月度月例会 3月17日（水）18:30-20:30 出席10名  
「情報サービス産業の現状と課題」（ビデオ視聴及び情報交換）
- (3) 4月度月例会 4月21日（水）18:30-20:30 出席7名  
「IFRSの概要と情報システムに対する影響」（ビデオ視聴及び情報交換）
- (4) 5月度月例会 5月19日（水）18:30-20:30 出席9名  
「IT分野の会計検査」（ビデオ視聴及び情報交換）
- (5) 6月度月例会 6月16日（水）18:30-20:30 出席11名  
「クラウドコンピューティングのセキュリティ」（ビデオ視聴及び情報交換）
- (6) 7月度月例会 7月21日（水）18:30-20:30 出席9名  
「東証新売買システム（arrowhead）の開発経緯について」（ビデオ視聴及び情報交換）
- (7) 9月度月例会 9月15日（水）18:30-20:30 出席6名  
「ソフトウェア資産管理（SAM（Software Asset Management））の概要と今後の動向、及びSAMにおける監査の実際」（ビデオ視聴及び情報交換）
- (8) 10月度月例会 10月20日（水）18:30-20:30 出席10名  
「IFRS（金融商品会計）によるITの影響とITの内部統制の評価」（ビデオ視聴及び情報交換）
- (9) 11月度月例会 11月17日（水）18:30-20:30 出席名  
「情報セキュリティ検証業務～「日本公認会計士協会IT委員会研究報告第39号」の解説～」（ビデオ視聴及び情報交換）
- (10) 12月度月例会 12月15日（水）18:30-20:30 出席8名  
中四国支部総会（事業報告、事業計画、等）

### 3. 支部役員

支部長：溝下 博                      副支部長：福田陽一、福原博明  
会 計：清野敏弘（7月迄） 福原博明（8月から兼務）  
監 事：池田光孝  
顧 問：大谷完次

## Ⅷ. 九州支部

### 1. 支部の状況と役員体制

●支部会員 42名（平成22年11月末日時点。昨年比8名減）

●役員体制

支部長	中溝統明	副支部長	船津 宏	荒添美穂
会計	居倉圭司	監査	松嶋 敦	
事務局	福田啓二			
地区担当	（大分）	：藤平 実	（長崎）	：平山克己
	（鹿児島）	：山下博美	（熊本）	：桐原光洋

### 2. 活動概要

- (1) 月例会の開催  
通例どおり、月1回の月例会を開催した。（福岡市）  
システム監査学会九州地区研究会との連携を継続した。  
なお、11月は他イベントが多かった為に休会
- (2) 西日本支部合同研究会を中部支部主催で開催(11/6)

- (3) 他団体との合同イベントとして、今年で7回目にあたる  
 大分合同セミナーを特定非営利活動法人 大分IT経営推進センター  
 社団法人中小企業診断協会 大分県支部、ITC大分、  
 システム監査学会との共催で合同セミナー開催した(11/27)
- (4) 他支部、関連他団体との連携、情報発信の活発化  
 日本ITストラテジスト協会合同月例会の開催(3/27)。

### 3. 月例会

毎月、東京での月例研究会ビデオ視聴および支部会員の研究・検討・報告事項の発表を中心に行った。

以下は各月の主要事項。(各回の主要発表事項)

- (1) 第229回 1月度月例会 1月23日(土) 13:00~17:00 (参加:9名)  
 内容 ・ビデオ視聴 第150回月例研究会  
 「情報サービス産業の現状と課題」  
 ・21年度会計報告と22年度の活動計画(福田)  
 ・日本セキュリティ監査協会小冊子紹介(中溝)  
 ・3月度月例会長崎開催案内(平山)
- (2) 第230回 2月度月例会 2月27日(土) 13:00~17:00 (参加:9名)  
 内容: ・ビデオ視聴 第151回月例研究会  
 「IFRSの概要と情報システムに対する影響」  
 ・第9期通常総会報告(中溝)  
 ・平成21年度公開セミナー(福岡県情報サービス産業協会)(鶴岡)  
 ・2009年度情報セキュリティ監査セミナー in Oita 報告(中溝)
- (3) 第231回 3月度月例会 3月27日(土) 13:00~17:00 (参加:13名)  
 内容: ・ご挨拶  
 安藤 秀樹氏(日本ITストラテジスト協会 会長)  
 ・講演1:「取った資格をどう活かす?」  
 ~システムエンジニア資格取得のすゝめ~  
 大熊 伸幸氏(日本ITストラテジスト協会 九州支部長)  
 ・講演2:「資格取得とスキルアップ」~システム監査技術者編~  
 福田 啓二氏(日本システム監査人協会 九州支部)  
 ・講演3:「インターネットバンキングの現状」  
 河崎 幸徳氏(日本システム監査人協会 九州支部)
- (4) 第232回 4月度月例会 4月24日(土) 13:00~17:00 (参加:7名)  
 内容: ・ビデオ視聴 第9期通常総会 特別講演  
 「クラウドコンピューティングのセキュリティ」  
 ・会員募集チラシ配布(4月18日情報試験会場)参加者  
 船津、小野、美田、福田、居倉  
 ・システム監査学会理事会(3/19)報告(船津)  
 ・平成22年度春期情報処理技術者試験動向(中溝)
- (5) 第233回 5月度月例会 5月29日(土) 15:00~17:00 (参加:7名)  
 内容: ・日本システム監査人協会理事会(5/13)報告(中溝)  
 ・監査報告とフォロー・アップへの取組み[その1](中溝)
- (6) 第234回 6月度月例会 6月26日(土) 15:00~17:00 (参加:5名)  
 内容: ・システム監査学会 2010年度第24回研究大会(船津、中溝)  
 ・監査報告とフォロー・アップへの取組み[その2](中溝)



- ・システム監査学会理事より(船津)
- (7) 第235回 7月度月例会 7月24日(土) 13:00~17:00 (参加:5名)
- 内容:・月例研究会資料研究
- ー 第153回月例研究会  
「東証新売買システム (arrowhead) の開発経緯について」
  - ー 第155回月例研究会  
「第16回 企業IT動向調査2010 (09年度調査)」
- ・企業活動とリスクマネジメントの研究 (船津、中溝)  
～システム監査学会 2010年度第24回研究大会～
  - ・2009年度 情報セキュリティインシデントに関する調査報告書の  
傾向分析(中溝)
  - ・監査報告とフォロ・アップへの取組み[その3] (中溝)
- (8) 第236回 8月度月例会 8月21日(土) 13:00~17:00 (参加:5名)
- 内容:・ビデオ視聴 第153回月例研究会  
「東証新売買システム (arrowhead) の開発経緯について」
- ・「ソフトウェア資産管理 (SAM) の基礎知識」  
～ ビジネス事例からSAMを考える ～ (中溝)
- (9) 第237回 9月度月例会 9月22日(土) 14:00~17:00 (参加:9名)
- 内容:・ビデオ視聴 第156回月例研究会  
「IFRS 金融商品とシステムおよび内部統制への影響」
- ・スマートグリッドをもうちょっと身近に  
ストラジックに考えてみよう (福田)
  - ・平成22年版 情報通信白書のトピックス (中溝)
- (10) 第238回 10月度月例会 10月27日(土) 14:00~17:00 (参加:10名)
- 内容:・ビデオ視聴 第157回月例研究会  
「情報セキュリティ検証業務  
～「日本公認会計士協会 IT 委員会研究報告第39号」の解説～」
- ・IPA中小企業情報セキュリティセミナー (平山)
  - ・平成22年度 合同セミナー (藤平)
  - ・自治体における情報関連の仕事について[現場・現実] (荒添)
- (11) 第239回 平成21年度九州支部総会(兼、12月度月例会) (参加12名)
- 日時:平成22年12月11日(土) 13:00~17:00
- 会場:福岡市早良市民センター第2会議室
- 内容:
- 議事(九州支部総会)
    - ・平成22年度事業報告
    - ・平成23年度事業計画
    - ・平成23年度役員改選

#### 4. 主催、共催イベント

- (1) 2010年度 SAAJ 西日本支部研究会  
参加:九州支部4名、詳細は中部支部を参照
- (2) 大分合同セミナー
- 日時 : 日時:平成22年11月27日(土) 13:00~17:05
- 会場 : 大分市コンパルホール 304 会議室
- 主催 : 特定非営利活動法人 大分IT経営推進センター

社団法人中小企業診断協会 大分県支部

I T C大分、システム監査学会

日本システム監査人協会 九州支部

後援 : 特定非営利活動法人 I Tコーディネータ協会

内容 : ①企業の農業参入に関する調査研究

講師 : (社) 中小企業診断協会 大分県支部 是永 逸郎 氏

②人と組織を活性化するシステム監査

講師 : 日本システム監査人協会 九州支部 中溝 統明 氏

③中国ビジネス最前線～中国ビジネスサポートの実体験より～

講師 : 廣田コンサルティング事務所 代表 廣田 好文 氏

参加 : S A A J 会員 9 名

## 5. メーリングリスト

平成22年 (平成21年12月～平成22年11月末) 2 0 6 通

(前年 2 6 2 通 前々年 4 5 7 通)

月例会案内および出欠連絡、各種公表 (システム監査関連) 情報、

セミナー情報など。

## 第2部 会計報告及び会計監査報告

### 1. 平成22年度 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録

平成22年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第9期

(単位:円)

科目・摘要	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金			
・本部現金預金			
三井住友銀行（日本橋東）	1,199,368		
みずほ銀行（八重洲口）	890,571		
東京三菱UFJ銀行（日本橋）	1,189,670		
楽天（旧イーバンク）銀行	176,716		
郵便振替口座	903,790		
郵便普通預金	1,000		
小口現金	133,746		
・支部現金預金			
北海道支部	300,848		
東北支部	81,534		
北信越支部	144,709		
中部支部	541,415		
近畿支部	561,086		
中・四国支部	314,475		
九州支部	246,886	6,685,814	
未収入金（延べ195名分の会費等）		1,950,000	
流動資産合計			8,635,814
2 固定資産			
器具備品			
シュレッダー1台	21,841		
パソコン1台	7,939		
プロジェクター 4台	56,374		
サーバー1台	101,339	187,493	
ソフトウェア			
新会員管理システム一式	483,000	483,000	
敷金（共同ビル）		1,652,480	
固定資産合計			2,322,973
資産合計			10,958,787
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金		41,840	
預り金（報酬等に係る源泉徴収税）		129,334	
前受金（翌年以降分の会費）		40,000	
流動負債合計			211,174
負債合計			211,174
III 差引 期末正味財産合計額			10,747,613

## 平成22年度 特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表

平成22年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第9期

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産		流動負債	
現金・預金	6,685,814	未払金	41,840
未収入金	1,950,000	預り金	129,334
		前受金	40,000
流動資産合計	8,635,814	流動負債合計	211,174
		正味財産の部	
固定資産			
器具備品	187,493	前期繰越正味財産	11,165,807
ソフトウェア	483,000	当期正味財産減少額	418,194
敷 金	1,652,480		
固定資産合計	2,322,973	正味財産合計	10,747,613
資産合計	10,958,787	負債 及び 正味財産合計	10,958,787

### 計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却

器具備品は定率法、ソフトウェアは定額法により、帳簿価額を直接減額している。

(2) 資金の範囲

資金の範囲は、現金と流動性預金としている。前期末及び当期末残高は、下記2に記載した通りである。

(3) 消費税に関する会計処理方法

税込方式によっている。なお、控除仕入税額は、消費税法第60条第4項により特定収入に係る課税仕入れ等の税額のみを控除している。

2. 次期繰越収支差額の内容

科 目	前期繰越残高	当期末残高
現金・預金	7,278,662	6,685,814
合計	7,278,662	6,685,814
固定性預金	0	0
合計	0	0
次期繰越収支差額	7,278,662	6,685,814

3. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次の通りで

科 目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
器具備品	2,567,365	2,379,872	187,493
ソフトウェア	1,617,000	1,134,000	483,000
合 計	4,184,365	3,513,872	670,493

## 平成22年度 特定非営利活動に係る事業会計 収支計算書

平成22年1月1日から平成22年12月31日まで

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第9期

(単位:円)

科 目	予 算 (細目)		実 績 (細目)		差引 (実績-予算)
I 収入の部					
1 入会金・会費収入	10,100,000		9,862,000		△ 238,000
入会金収入		100,000		132,000	32,000
会費収入		10,000,000		9,730,000	△ 270,000
2 事業収入	10,557,500		9,404,907		△ 1,152,593
普及・啓発、広報事業		0			0
研究・研修事業		7,827,500		5,929,857	△ 1,897,643
認定事業収入		2,730,000		3,475,050	745,050
3 寄付金収入	0		0		0
4 その他収入	1,932,856		1,995,511		62,655
支部収入		1,732,856	0	1,928,935	196,079
雑収入		200,000	0	66,576	△ 133,424
当期収入合計 (A)	22,590,356		21,262,418		△ 1,327,938
II 支出の部					
1 事業費	12,546,570		8,985,592		△ 3,560,978
普及・啓発、広報事業費		3,707,000		2,627,003	△ 1,079,997
研究・研修事業費		6,839,570		4,445,118	△ 2,394,452
認定事業費		2,000,000		1,913,471	△ 86,529
2 管理費	12,258,020		12,312,129		54,109
通信費		220,000		136,311	△ 83,689
旅費交通費		800,000		866,882	66,882
消耗品費		170,000		120,714	△ 49,286
会議費		600,000		418,674	△ 181,326
事務局手当		3,100,000		3,807,520	707,520
事務所運営費		2,800,000		2,941,943	141,943
会計業務委託費		504,000		210,000	△ 294,000
ハード・ソフト費用		457,520		553,947	96,427
支部運営費		3,206,500		2,990,822	△ 215,678
(支部助成金)		(1,323,000)		(1,240,000)	(△83,000)
雑費		400,000		265,316	△ 134,684
3 予備費	0		0		0
4 減価償却費	400,000		382,891		△ 17,109
5 租税公課	0		0		0
当期支出合計 (B)	25,204,590		21,680,612		△ 3,523,978
当期収支差額 (A) - (B)	△ 2,614,234		△ 418,194		2,196,040
前期繰越収支差額 (C)	11,165,807		11,165,807		0
当期繰越収支差額 (A)-(B)+(C)	8,551,573		10,747,613		2,196,040

\*実績の入会金・会費収入には、未収入金1,950,000円の金額を含む。

\*実績の支部運営費は2,990,822円のうち1,240,000円は支部助成金から支出している。


## 2. 平成22年度 監査報告

### 監査報告書

1. 特定非営利活動法人日本システム監査人協会における平成22年度（平成22年1月1日から平成22年12月31日）の事業予定・実績表、貸借対照表並びに財産目録は、関係諸帳簿、その他の関係書類を監査したところ、いずれも適正であり、また、公益法人会計基準に準じて正確に作成されたものであることを認めます。
2. 業務遂行に関しては、不正行為または法令もしくは定款に違反する事実は認められません。

平成23年1月29日

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

監事 富山 伸夫 

監事 中尾 宏 

## 平成23年度 事業計画（案）

### I. 本部

#### 1. 全般

システム監査の基準をISO化しようとする動きが始まっている。

日本が提案する国際標準についてはかねてより激しい抵抗があったと聞いており、当協会としてもISO化の着実な実現に向けての活動推進に注力していく必要がある。

数年にわたる活動の担い手は、相当程度、ボランティアでお願いすることになるだろうが、問題は、必要な資金の手当である。

協会が調達できる金額は限られている。

国にどう働きかけ、どの省庁が、どこまで出してくれるか。

他に、援助を仰げる団体があるか。

ISO化関連以外では、今まで通り、公認システム監査人の知名度向上に力を割かなければならない。

- ・システム監査基準ISO化の推進
- ・公認システム監査人制度の充実とCSAの知名度向上
- ・新規事業開拓の検討

#### (1) システム監査基準ISO化の推進

- ・ISO化提案資料作成の支援
- ・同資金計画の立案
- ・同資金集めの活動

#### (2) 公認システム監査人認定制度の充実とCSAの知名度向上

- ・公認システム監査人等の相互交流と利用活性化のためにCSA（ASA含む）認定取得者を対象にしたCSAフォーラムの開催（年4回）
- ・CSAパンフレットや入札条件への資格明記等による知名度向上
- ・CSA（ASA含む）申請の募集と継続教育セミナーの実施

#### (3) 新規事業開拓の検討

- ・各部会、支部で試行されているセミナー定着の検討
- ・組織横断的チームによる新規事業の検討

## 2. 教育研修委員会

本年度も前年同様、下記の通りの計画に沿って、特別認定コースを特別講習認定機関に委託し実施する。

### (1) 論文・プレゼンテーションコース（1日コース）

実施回数予定：東京 7回、大阪 3回 計10回

実施時期予定：1月～6月 5回、7月～12月 5回

受講者予定：15名

### (2) システム監査に関する知識コース（2日コース）

実施回数予定：東京 6回、大阪4回 計10回

実施時期予定：1月～6月 4回、7月～12月 4回

受講者予定：20名

### (3) 情報システムに関する知識コース

実施回数予定：東京1回、大阪1回 計2回

実施時期予定：1月～6月 1回、7月～12月 1回

受講者予定：4名

### (4) コース運営管理について

委託機関に対して、講習後の試験採点結果が協会の評価で再提出のない様に、採点を行うことを指導する。

保管ファイルの整理を行い、過去の情報をデジタル保管とする。

## 3. 会報

### (1) 今後の活動計画

①気軽にエッセイやレポートを投稿できる環境を用意して、会員各位が積極的に投稿いただけるよう期待しています。

定例テーマは、月例研究会、事例研修会、課題解決研修の報告。支部の活動報告。CSA 活動報告など。

②実務に有益な会報を目指し、活動報告と掲載論文の募集を継続します。

③電子化した会報の一部を電子書籍として発行し、監査に関心を持つ人への広報誌として情報発信が出来るよう環境整備を行います。

どのような形式であれば円滑な情報交換や意見の吸収ができるか、引き続き試行します。

(例：CSA コラム、軽いエッセイ風の記事編集)

### (2) 2011 年会報の特集計画

「めだか」の記事数、内容充実を図ります。

さらに2011年には、システム監査を通じた業務効率の向上、経営の質向上をテーマに、システム監査人、公認システム監査人の活躍の状況を編集していく見込みです。

### (3) 会報の編集、発行回数について

①電子化に伴い、従来印刷会社に委託していたレイアウトやフォーマット編集、記事の体裁など編集作業の負荷が増加しています。できるだけ標準フォーマット化を促進して、投稿された原稿をそのまま電子会報の原稿とできるように、編集体制を見直します。

②2011年は、会報の月次発行を維持しながら、会員や会員以外が相互に情報交換できる場を提供することを試行したい。印刷した会報誌の発行は、経費（印刷、送料）の節減を図るため、1回とする。



## 4. 月例研究会

### (1) 月例研究会の開催回数について

平成22年度は年間9回の研究会を開催した。

平成23年度も年間8回から9回の開催を予定したい。

### (2) 各回のテーマ／講師について

- ・引続き会員の興味を引く、鮮度のよいテーマの選定に努めたい。
- ・また、分野については特定分野に偏らずバランスよく選定していきたい。
- ・講師については、今年度も官公庁、諸団体、民間、大学教員及び当協会関係者等のバランスを考慮していきたい。

## 5. 法人部会

### (1) 会員の拡大

- ・平成22年は法人正会員が1団体増加した。引き続き、法人正会員の増強に向けた活動を行う。具体的には、システム監査企業台帳登録企業をはじめ、システム監査に係わりの深い企業に対しての入会案内の送付を行う。
- ・法人部会、さらには当協会の活動成果のアピールが会員の増強につながるので、活動の充実を図っていく。

### (2) 情報セキュリティセミナーの企画・実施

- ・平成22年は、セミナー講師派遣の照会があったが、残念ながら実施には至らなかった。
- ・当協会の知名度向上にも意義のある活動であり、セミナーの内容の充実、実施事例のアピールなどによって、さらに広報を行い、実績を上げたい。DMおよびWebサイトでの案内に加えて、新たな案内方法を検討する。

### (3) 会報での法人会員企業紹介

- ・以前行っていたが、ここ数年行っていなかった。ここ2～3年、毎年数社が入会されていることもあり、復活させる。
- ・新たに会報が電子媒体になったこともあり、企業紹介のアピール度も強まると考えられる。法人会員にとってメリットのある方法・内容を、会報担当と一緒に検討し、実施する。

### (4) 会員同士の情報交換

次のようなテーマで、会員企業同士で意見交換を行っていく。

- ・システム監査のビジネス化
- ・システム監査を取り巻く情報；昨年に引き続き、BCP（事業継続計画）をテーマに情報・意見交換を行っていく。

### (5) 定例部会

- ・原則、月1回開催する。

## 6. CSA利用推進

### (1) 今後の活動計画

- ・CSAのプレゼンスと社会的な評価や価値を高め、具体的な実効を挙げることを目標とする。CSAフォーラムを引き続き隔月開催し、CSAの方々をうまく巻き込んだ実践的な取り組みを推進する。
- ・CSAフォーラムの事前登録者に対して、CSA利用推進活動に対するアンケートを実施して、CSAフォーラムの活性化と積極的な参加を促す。合わせて事前登録をしていないCSA（ASA含む）の方々に事前登録の再募集を行い、事前登録者を増やす。
- ・CSA利用推進に対する支援メンバーを募集して、CSA利用推進Gの会合を隔月開催する。

その中でCSA認定カード、CSAパンフレット、入札条件への資格記載の依頼等に対する普及フォローを今後強化する。

- ・SAAJホームページにおけるCSA関連サイトの内容充実により、CSAフォーラムへの参加有無に関わらず相互研鑽と情報共有の場の充実を図る。
- ・CSAを広く社会に知ってもらうためにCSAに関係した実務書の出版も複数の筆者を募りながら検討を開始する。
- ・会報、HP、メーリングリスト、月例会等との連携については、会報、HP&メーリングリスト、月例会等の担当理事、CSA認定委員会、SAAJ事務局等と協力しながら進めていく。

## (2) 今後の課題

- ・CSAフォーラムにより参加しているCSA同士の交流は広がったが、CSA利用推進の活動をSAAJ会員に幅広く知ってもらうことと、世の中に対してCSAのプレゼンスを高める実効は、まだ推進途上である。次年度は、CSAフォーラムの隔月開催だけでなく、SAAJ外部に対する活動を再度見直して活性化する施策を展開したい。そのためにより多くのCSAの方々との連携・協力体制作りを進めたい。
- ・20周年プロジェクトでの検討課題として、引き続き「システム監査人の役割、要求されるスキルなどの見解のまとめ」について、“CSAフォーラム”における検討テーマとしての取り組みを進める。期待されるシステム監査人としての役割、スキルを整理した上で、より高度なシステム監査人について進むべき人材像の明確化と具体的な育成策の提示を目指していく。

## 7. システム監査事例研究会

### (1) システム監査サービス

昨年は4件の引き合いがあった。

監査報告の品質をアピール出来るように、依頼者の業種・業務に精通した事例研メンバーを投入できる体制を確立する。

セミナー教材を充実させるためにも積極的に受託活動を行う。

### (2) システム監査実務・実践セミナー

公認システム監査人制度の教育制度の一環として、昨年同様システム監査実務セミナー4日間コースを2回開催したい。監査サービス実施結果に基づき新教材の開発を行い、システム監査未経験の会員及び公認システム監査人補にシステム監査実務を経験する機会を提供していきたい。

また、セミナー講師の育成を平行して進めたい。

具体的な開催計画は、以下の通り。

#### ①第17回システム監査実務セミナー4日間コース

2011年1月29～30日、2月12～13日 (於：東京都中央区)

#### ②第18回システム監査実務セミナー4日間コース

9月開催予定 (於：東京都中央区)

### (3) 事例に学ぶ課題解決セミナー

昨年2回実施して、セミナーの形や流れはほぼ固まった。今年は受講者を意識した事例の充実や演習内容の見直しを行なう。

また、各支部と連携して出張セミナーを開催するとともに、一般向けの集合セミナー(半日コース)の開催を計画する。

### (4) システム監査事例研究会からの情報発信

SAAJのホームページ上に、事例研究会の活動状況及び活動実績を広報、宣伝するために、継続的に情報発信を行なうこととしたい。

### (5) 月例会の活性化

毎月開催している月例会において、既存会員の参加率を高めたり、新入会員の入会を促進する取り組みを強化したい。具体的には、メンバーの知識や経験を共有できるような運営を目指す。

## 8. 情報セキュリティ監査研究会

### (1) 活動計画 (継続)

平成22年度には主査の事情で活動が不十分となり計画した成果まで至ることが出来なかったため、引き続きその延長になる次の検討を進める。

『情報セキュリティ監査のためのリスクの洗い出しおよびその分析、監査における監査ツールの利用』の一般化、普及

### (2) 平成23年度研究会研究項目

リスクの洗い出しに関しては、近年中小規模の企業においても活用場面が出てきているクラウドコンピュータ利用に関わるリスクを含めて考えることにする。

成果としては、「リスクの洗い出しおよびその分析、監査ツールの利用」について一般の方々（＝当協会に所属していないなど専門家で無い方々）を意識した分かりやすい、使いやすい形でまとめることにしたい。まとめる成果は監査に関する情報・ノウハウの共有を目指すものとする。

### (3) 展開方法 (案)

リスクの洗い出しとその対応方法を資料化し、リスクの洗い出しモデルとしてツール上に展開する。Wikiサーバにおいた閲覧ツールを利用し、このツール上にリスク要因とそれに関わる対策を情報セキュリティ監査結果、またクラウドサービス利用のガイドライン（\*2）などを参考にし、JISQ27001（\*1）などと関連付けるものとする。

（\*1）JISQ27001：情報技術—セキュリティ技術—情報セキュリティマネジメントシステム—要求事項

（\*2）経済産業省：「クラウドサービスの利用のための情報セキュリティマネジメントシステムガイドライン」

## 9. システム監査基準研究会

### (1) 研究項目

① SAAJ システム管理基準体系

### (2) 研究会項目

1) 各種開発環境・手法における監査のポイント

① 「Web システムにおける監査のポイント」（開発・利用）

研究会内のレビュー後、HP上に公開しパブコメを募集する。

② 「BCMにおける監査のポイント」

研究会内のレビュー後、HP上に公開しパブコメを募集する。

③ 「プロジェクトマネジメント監査のポイント」

原案を作成し、研究会内のレビュー後、HP上に公開しパブコメを募集する。

2) システム監査の視点の整理（特に有効性）

「目的適合性に関する監査の着眼点」と「投資対効果に関する監査の着眼点」をブレイクダウンし、チェックリスト等の原案を作成する。

以上の成果が揃ったところで、全体をとりまとめた成果物も検討していきたい。

3) IT Audit の ISO 化の動向に対しては、優先順位を高くして協力していく。

4) 日本セキュリティ監査協会(JASA)との具体的な協力内容等を検討したい。

### (3) 定例研究会

・定例研究会は、原則月1回開催する。

## 10. 個人情報保護監査研究会

2010年の活動として、「個人情報保護マネジメントシステム実践マニュアル」第11章「運用確認と監査で点検する」について検討を重ねてきた結果、監査計画から、監査実施、監査報告までの流れが整理できたので、今後は実際に個人情報保護外部監査サービスを実施する計画である。ついでには、SAAJホームページに、Pマークをこれから取得する事業者や、更新申請を予定している事業者などをターゲットに案内を掲載する。また会員メーリングリストを利用して、会員からのご紹介やホームページへの誘導を期待している。

また引き続き中小企業向けの解りやすい「PMS実践マニュアル」簡易版の策定作業を継続していく。遅くともJIS改定の時期には迅速に改訂箇所を反映した版の発行を目標としたい。

## II. 北海道支部

### 1. 定例研究会・勉強会実施

研究会は、テーマを決めて隔月で実施する。基本的に支部員が持ち回りで講師を務める。また、本部より送付される月例会のビデオテープを上映する勉強会を隔月で実施する。

### 2. 講演会の実施

年に1度、外部より講師を招いて講演会を実施、広く一般に公開する。他団体との共催により聴衆を増やし知名度を高めるとともに、広く交流を図る。

### 3. システム監査の実践

北海道でのシステム監査普及サービスを試行する。また北海道でのシステム監査ビジネスの普及に向けての調査を行う。

### 4. 広報

支部活動について対外的な広報、および支部員勧誘を行う。

対外的な広報に関しては、協会のホームページの北海道支部のコーナーを充実させる。

### 5. メーリングリストによる連絡

支部メーリングリストにより、支部員間の連絡および情報交換を行う。

### 6. 10周年に向けての準備

2012.1.10、支部設立から10周年を迎えるため、2012年に10周年記念行事を行う。2011年はその内容検討の準備を行う。

### 7. 支部体制

支部長	大館広之	副支部長	小林弘幸(新任)、五十嵐洋介
会計	谷口泰正	監事	小柳政行
研究会担当	菊地 圭(新任)、本多鉄兵		
ML担当	渡部洋子	広報担当	曾根本 育裕(新任)

## III. 東北支部

### 1. 月例研究会

- ・メーリングによる参加を考慮した定例会を2ヶ月に1回程度開催する。
- ・毎回、会員による活動事例発表を講演する。
- ・開催場所は仙台市の他、各県での開催を検討しつつ運営する。  
2/5(土) 仙台、4/16(土) 福島、6/25(土) 山形、  
8/20(土) 仙台、11/2(水) 理事会
- ・第9期総会は、12月17日(土) 仙台市内にて開催する。

### 2. 広報活動

- ・各県のITコーディネータ組織及び日本ITストラテジスト協会東北支部との連携を図り、当協会東北支部の広報宣伝活動を強化する。

- ・協会ホームページの支部便りを活用し、特に、東北支部地域へのシステム監査に関する情報の発信を行う。
- ・協会本部と連携し、情報処理技術者試験会場で入会勧誘の宣伝をする。

### 3. 会員増強

- ・公認システム監査人の特別講習受講対象資格保持者から公認システム監査人（補）の資格取得促進を図るため、仙台市での特別認定講習実施に向け活動する。
- ・上記受講を終了し、公認システム監査人（補）の資格取得した者、および情報処理試験（システム監査技術者）合格者などを対象に会員加入を推進する。

### 4. システム監査普及サービスの実施

- ・今年度は、更に会員がシステム監査を体験できるように、システム監査普及サービス対象企業を募り、事例研究会と共同開催を目指す。

### 5. ワークショップの開催

- ・ITCみやぎ及び日本ITストラテジスト協会東北支部と共催しているワークショップを本年度も10/21（金）～22（土）仙台にて開催する。

### 6. 支部役員

支部長：高橋典子 副支部長：佐藤賢一、横倉正教（役職変更）  
 会計：佐藤雅英 研究会：高橋壮太、小野寺司、小野寺学（新）  
 広報：櫻谷昭慶、館田あゆみ（役職変更） 監事：成田由加里  
 顧問：鈴木実 ※田口三郎副支部長は退任

## IV. 北信越支部

### 1. 本年度の目標

支部会員の能力向上と支部の技術基盤向上を目指します。

- ・研究チーム継続によるシステム監査の技術基盤の向上。
  - － システム監査研究会
  - － 情報セキュリティ監査研究会
- ・本部、他支部との交流による知識、技術力の向上。
  - － 研究会ビデオの貸出し運営
- ・プレゼンテーション能力の向上。
- ・インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上。

### 2. 活動計画

- ・3月12日 年度総会（富山）
- ・6月11日 福井県例会
- ・9月10日 新潟県例会
- ・11月 西日本支部合同研究会
- ・12月10日 石川県例会

### 3. 支部役員改正案

支部長：宮本茂明（石川）、副支部長：白井正（新潟）、梶川明美（富山）  
 会計：坂井敏之（富山）、情報統括：清水尚志（石川）  
 顧問：伊藤祐太郎（富山）、森広志（富山）  
 県部会長：角屋典一（福井）、木村武志（石川）、國谷吉英（富山）、  
 風間一人（新潟）、藤原康弘（長野）  
 書記：尾島純子（富山）、監事：高瀬清春（富山）

## V. 中部支部

## 1. 活動方針

- ・中部支部内会員、およびの継続的な相互研鑽・交流を図る。
- ・中部支部以外の地域や団体との人材交流を積極的に展開していく。

## 2. 活動体制(敬称略)

支部長 : 田中 勝弘                      副支部長 : 栗山 孝祐  
会計担当 : 安井 秀樹(新任)              会計監査 : 早川 晃由(新任)  
顧問・監事: 若原 達朗

## 3. 活動内容(予定)

- (1) 例会(奇数月の土曜日)
- (2) 合宿(11月頃)(日本ITストラテジスト協会と共同開催を検討)  
テーマ、詳細、担当者は未定(土曜日午後から日曜日の午前中)
- (3) その他
  - ・メーリングリスト等を通じた会員の相互交流、情報提供
  - ・中国などとの交流
  - ・西日本支部合同研究会への参画
  - ・その他

## VI. 近畿支部

### 1. 活動方針

- ・本年度は、2008年度の支部20周年記念行事を契機として、活性化してきた支部活動を更に充実させる
- ・役員体制を整備し、活動基盤を強固にする。

### 2. 支部体制(敬称略)

#### (1) 支部役員

支部理事(支部長) 吉田 博一(留任)  
支部理事(副支部長) 関西 康一郎(留任)  
支部理事(会計) 片岡 学(留任)  
支部担当役員(副支部長) 林 裕正(新任)  
支部担当役員 是松 徹(新任)  
支部担当役員(コンプライアンスのシステム監査研究会、クラウド研究会)  
雑賀 努(留任)  
支部担当役員(システム監査法制化研究会) 田淵 隆明(留任)  
支部担当役員(BCP研究会) 荒町 弘(新任)  
支部担当役員(セミナーWG) 三橋 潤(留任)  
支部担当役員(支部サイトWG) 金子 力造(留任)  
支部監事 福德 泰司(留任)

#### (2) 支部参与

木村 安寿、中谷 正明、安本 哲之助(全員、留任)

#### (3) サポーター

小宮 弘信、寺下 厚二、岡谷 亨、鈴木 章彦、松井 秀雄、神尾 博、広瀬 克之、伊藤 一彦、深田 哲信、後藤 知久(順不同 全員、留任)のサポーター各位の協力を得て、支部活動を行う。

### 3. 定例研究会活動

- ・従来同様、隔月(奇数月)の第3金曜日及び12月にて年間7回開催する計画である。
- ・講師の選定等は、当協会会員を中心にリクエストに応じてお願いする。
- ・西日本支部合同研究会(中部支部・北信越支部・近畿支部・中四国支部・九州支部が合同で

行う)について、参加する。

・各研究会・WGの成果発表や会員の研究報告を行う研究大会(仮称)を8月に行う。

#### 4. システム監査勉強会

・本部定例研究会のビデオによる勉強会で、平成17年度より実施した。

・定例研究会の開催されない月(偶数月 8月、12月は除く)の第3土曜日で、年間5回予定。

#### 5. セミナー活動

##### (1) システム監査実践セミナー

中小企業のシステム監査の模擬監査として、セミナーWG担当役員を中心に計画する。

##### (2) システム監査入門セミナー

一日コースのシステム監査の入門研修を行う。セミナーWG担当役員を中心に計画する。

#### 6. 研究会・WG活動

次の4研究会、2WGを設置し、支部会員により活発な研究会活動やセミナー等の準備作業を行う。

##### (1) コンプライアンスのシステム監査研究会

システム監査学会と共同プロジェクトとして、実施する。

主査: 雑賀 努 副主査: 吉田 博一

現状通り、月に1回の研究会を基礎に行う。

1. コンプライアンスの事例研究 (H23/3 まで)
2. コンプライアンスのシステム監査の企業マップの見直し (H23/7 まで)
3. コンプライアンスのシステム監査基準の設定について (H24/3 まで)

##### (2) システム監査法制化研究会

主査: 田淵 隆明

システム監査の法制化について、課題を検討し、実現に向けてのロードマップを作成する。

##### (3) BCP研究会

主査: 荒町 弘

協力企業のBCP作成の支援を行い、BCPの作成にあたっての課題や企業が抱える課題について、システム監査人として、検討する。

##### (4) クラウド研究会

主査: 松田 貴典 副主査: 雑賀 努 深瀬 仁 (システム監査学会)

クラウドコンピューティングにおけるシステム監査について、システム監査学会と共同プロジェクトとして、実施する。

##### (5) システム監査セミナーWG

主査: 三橋 潤

入門セミナー(1日コース)、実践セミナー(2日コース)他のセミナーについて、開催する。

##### (6) 近畿支部サイトWG

主査: 金子 力造 副主査: 神尾 博

1. 支部サイト関連の契約更新
2. メール及びメーリングリストの運用
  - ・各WGからの依頼により適時発行
  - ・運用ルールの策定と告知
3. サイトの運用
  - ・公開サイト(ブログ形式)では例会レポートやWG活動などの発信
  - ・非公開サイトの検討(WG用あるいは会員用として)、資料保管庫の運用(WebFile)
  - ・運用ルールの策定と告知

#### 7. システム監査普及サービス

システム監査業務ノウハウの確立と普及、時代に即したシステム監査人の養成のために、体制整備につとめる。

## 8. 支部運営体制について

### (1) 円滑な支部運営

支部役員の体制を強化し、サポーターと連携して、支部運営を行う。

### (2) 支部サイトの活用

支部サイトを活用し、各種活動を支援する。支部サイトWGにて、活用策を検討する。

## Ⅶ. 中四国支部

### 1. 活動方針

- ・中四国支部会員の継続的な研鑽と情報交換の場を提供する。
- ・中四国地域で唯一のシステム監査人の団体として、システム監査に関わる窓口組織となるように広報等の知名度向上に努める。

### 2. 活動計画

#### (1) 月例会の開催（原則毎月第3水曜日）

- ・月例研究会のビデオ視聴
- ・その他、情報交換

#### (2) 他支部、他団体との連携

- ・地域の IT コーディネータ組織等とのイベント共催等
- ・西日本合同研究会の開催

### 3. 役員体制

支部長：溝下 博                      副支部長：福田陽一、福原博明  
会 計：福原博明（兼務）      監 事：池田光孝  
顧 問：大谷完次

## Ⅷ. 九州支部

### 1. 活動計画

#### (1) 月例会の開催 原則月1回の月例会を継続する。

- ・参加者が発表しやすい企画。
- ・年1～2回程度の外部講師による講演の企画。
- ・システム監査学会九州地区研究会および ISACA 福岡支部（設立予定）との連携

#### (2) イベント企画・推進

##### ① イベント企画

- ・九州支部特別講演会  
－ 2011年2月予定

##### ② テーマ活動

- ・研究活動（支部会員のシステム監査の技術水準向上）
  - － システムリスクの研究
  - － 協会講座の利活用
- ・普及活動（支部においてシステム監査の普及）
  - － システム監査合格者勧誘  
試験会場での会員募集チラシ配布、試験の対策講座の開催
  - － システム監査の重要性・価値をアピール
- ・営業活動（支部会員のシステム監査ビジネスの拡大）
  - － システム監査人（資格）の有効性・信頼性を発揮



ー システム監査ビジネスの潜在ニーズを発掘

- (3) 他支部、他団体との合同企画・開催。
  - ・西日本支部合同研究会への参加
  - 2011年度は中四国部支部主催で開催予定
  - ・福岡 ITC 推進協議会はじめ九州各県の ITC 組織、日本 IT ストラテジスト協会九州支部等の関連団体とのイベント共催を推進する。
- (4) 関連他団体との連携、情報発信の活発化
  - ・関連団体主催のイベントへの後援などを通じ連携を深めるとともに、当協会の紹介などを活発に行う。
- (5) メーリングリストによる情報・意見交換の一層の活発化
- (6) 情報発信、広報活動の活性化
  - ・支部の活動計画、実績をホームページを中心に発信、広報に努める。
- (7) その他、支部活動整備
  - ・支部会員名簿の整備を進める。

## 2. 役員体制

支部長	中溝統明	副支部長	船津 宏	荒添美穂
会計	居倉圭司	監査	松嶋 敦	
事務局	福田啓二			
地区担当	長崎	平山克己		
	大分	梶屋博史		
	鹿児島	山下博美		
	熊本	中尾克代		

# 平成23年度予算 (案)

## 平成23年度 特定非営利活動に係る事業会計 事業予算科目案

平成23年1月1日から平成23年12月31日まで

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第10期

(単位：円)

科 目	予 算 (細目)		備考
I 収入の部			
1 入会金・会費収入	10,500,000		
入会金収入		130,000	
会費収入		10,370,000	
2 事業収入	9,379,000		
普及・啓発、広報事業		0	
研究・研修事業		7,090,000	月例会、セミナー、研究会等
認定事業		2,289,000	認定料、登録料、更新料
3 寄付金収入	0		
4 その他収入	1,702,567		
支部収入		1,642,567	支部研修会収入等
雑収入		60,000	受取利息等
当期収入合計 (A)	21,581,567		
II 支出の部			
1 事業費	9,877,900		
普及・啓発、広報事業費		2,910,900	会報、パンフ、ホームページ等
研究・研修事業費		5,167,000	各研究会、セミナー講師料等
認定事業費		1,800,000	認定員手当て、認定票作成費
2 管理費	11,332,460		
通信費		140,000	
旅費交通費		870,000	
消耗品費		120,000	
会議費		420,000	
事務局手当		3,022,200	
事務所運営費		2,900,000	
ハード・ソフト費用		538,560	
支部運営費		3,051,700	
(支部助成金)		(1,232,000)	
雑費		270,000	
3 予備費	0		
4 減価償却費	370,588		
5 租税公課	0		
当期支出合計 (B)	21,580,948		
当期収支差額 (A) - (B)	619		
前期繰越収支差額 (C)	10,747,613		
当期繰越収支差額 (A) - (B) + (C)	10,748,232		